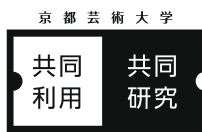


2023年度 共同研究公募要項



1. 本公募事業の趣旨・目的

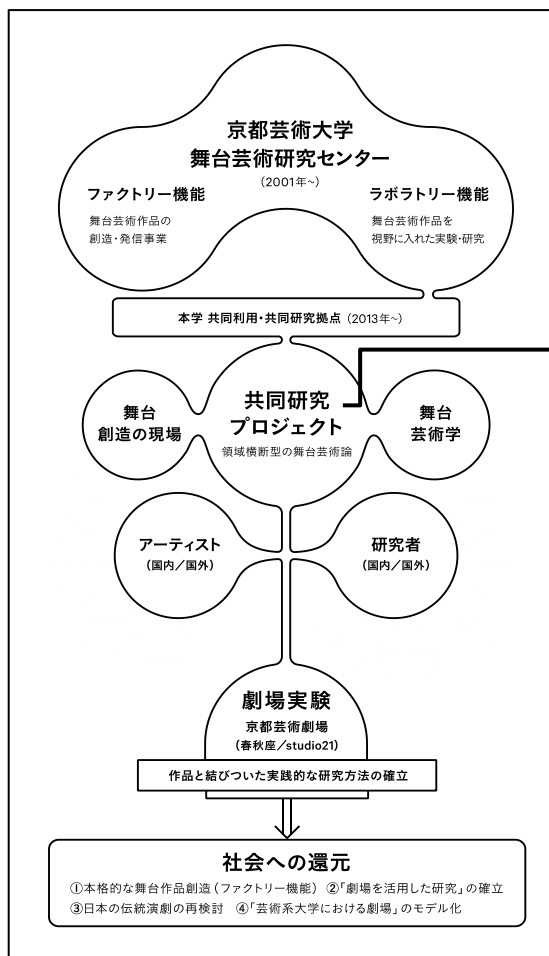
京都芸術大学 舞台芸術研究センター（舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点）では、舞台芸術作品の「創造」（＝ファクトリー機能）だけではなく、作品が生み出されていく「創造のプロセス」に焦点をあてた「実験」や「研究」（＝ラボラトリー機能）を2013年度より継続してきました。

本公募事業では、この「ラボラトリー機能」に関わる共同研究プロジェクトとして、創造と研究が横断的に結びついた舞台芸術の新たな可能性を探求する【劇場実験型】【リサーチ支援型】の研究プロジェクトを募集します。

研究テーマについては、研究代表者の自由な発想からなる【自由テーマ】、または、「舞台芸術とテクノロジー」を課題とした【課題テーマ】による研究事業のいずれかとなります。

なお、この共同研究プロジェクトでは、創造と研究の協働をふまえた、演劇・ダンス・伝統芸能・音楽・美術・映像・AR VR・教育などの幅広い分野に関わるジャンル横断的な研究を推奨しています。

創造と研究の融合—新たな舞台芸術の「場」



ラボラトリー機能

芸術活動の根幹となる作品の「創造」と、「創造」に必要なヒントやインスピレーションを与える「研究」とを、実践的に融合する「芸術系大学」の社会的使命という視点から、アーティストと研究者・批評家が共同研究チームを組み、「創造のプロセス」を構築していく機能を指します。

共同利用研究プロジェクト

(I) 【劇場実験型】

京都芸術劇場（春秋座・studio21）を活用した「劇場実験」を研究プロセスの中心に据え、研究者とアーティスト・舞台技術者等の協働による研究チームによって行われる研究プロジェクトを指します。

創造と研究の連携を通じた実践的な研究を支援することで、新たな舞台芸術のヴィジョンを構想する先進的な研究を奨励します。（左図参照）

(II) 【リサーチ支援型】

劇場実験や作品の創作、発表に至る前段階の「リサーチ」を中心とする研究プロジェクトを指します。新しい発想からなる舞台芸術作品の創作に向けた文献調査やフィールドワーク、その他、創作のための劇場実験を将来的に見据えたりリサーチを中心とする研究を奨励します。

2023年度 劇場実験型・リサーチ支援型公募の募集について

私たち、京都芸術大学〈舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点〉では、2014年度から「劇場実験型」の研究公募を実施してきました。2019年度からは、「リサーチ支援型」の研究公募もあわせて実施することで、できるだけ多くの方に、本研究拠点のリソースを活用しながら、未来の舞台芸術作品の創造に、何らかの形でつながっていく創造的な研究・実験を実現していただけるように環境整備に取り組んでまいりました。

2020年、突如発生したコロナ禍は舞台芸術のあり方に多大な影響を及ぼしましたが、ようやく出口が見えてきた今、この2年間を総括すると同時にポスト・コロナ禍の舞台芸術の進むべき道を探求する 때가 来ました。加えて、コロナ禍によって影を潜めていた2010年代の世界全体が有していた諸問題、また、ますます混沌とする国際秩序の動向や、激甚化する自然災害や気候変動など、数多くの問題が一気に顕在化してきた今、否応なく私たちは大きな変化を求められています。

そうした状況に鑑みると、「未来の舞台芸術」の創造を目標とする本研究拠点の研究公募もまた、社会情勢や環境の変化に何らかの形で応答していく必要性を感じています。

そこで2023年度は、研究公募を「劇場実験型」「リサーチ支援型」の双方とも、二つのテーマを通して行うことといたします。

ひとつは、「自由テーマ」であり、もうひとつは「舞台芸術とテクノロジー」という「課題テーマ」です。特に「課題テーマ」では、舞台芸術の表現手段としての先端テクノロジーの可能性を探る研究のみならず、私たち人間が先端テクノロジーといかに舞台上で関係を築いていくべきかなど、人文科学的な視座にたった研究も想定しています。

審査にあたっては、「自由テーマ」「課題テーマ」の別なく、純粋に優れた研究計画と認められるプロジェクトを採択していくことになります。応募を検討される皆さんには、ご自身の問題意識と、上記のような本研究拠点の問題意識を踏まえつつ、ぜひとも充実した研究計画をご応募いただければ幸いです。

(1) 【自由テーマ】

自由テーマでは、舞台芸術の創造・受容にむけた、これまでに無い新たな発想による研究計画を募集します。「伝統」と「現代」のクリエイティブな融合を目指す研究や、日本の演劇伝統の再検証を通じ「活きた現代の芸術」としての可能性の再検証を目指す研究、あるいは、芸術大学における劇場という特色を活用した「大学の劇場」の社会的役割モデルの発信など、「創造」と「研究」が領域横断的に結びついた、自由な発想による研究計画をお待ちしています。

(2) 【課題テーマ】

課題テーマでは、「舞台芸術とテクノロジー」を主題とする研究プロジェクトを募集します。「舞台芸術とテクノロジー」の新たな関係性を見つめ直す劇場実験型の研究やリサーチ支援型プロジェクトなど、「創造」と「研究」の横断的な発想を通じた意欲的な研究計画をお待ちしています。

2020年度～2022年度の採択研究テーマ一覧

- ・ アフォーダンス・コレオグラフィ 誘導の振付 (劇場実験型/2022年度)
- ・ 「明日の寓話」プロジェクトー人間と非人間の新しいナラティブの創作に向けて (リサーチ支援型/2022年度)
- ・ 「インスタレーション/パフォーマンス」における身体と空間 (リサーチ支援型/2022年度)
- ・ 近代的な個の輪郭をほどく演技体——『ab さんご』を經由して、劇作論をしたためる—— (リサーチ支援型/2022年度)
- ・ GEIST—「多元な音響空間」の実現に向けた自動演奏楽器、入出力装置、および作曲・演奏法の開発 (劇場実験型/2021年度)
- ・ 罵倒の作法—求められる怒りと憎しみの表現形式を巡って— (リサーチ支援型/2021年度)
- ・ 演劇におけるポリフォニー：集団創作のプロセスと作品の構造をめぐって (リサーチ支援型/2021年度)
- ・ 振動は最小のダンスである (リサーチ支援型/2021年度)
- ・ 多和田葉子の演劇 ～連続研究会と『夜ヒカル鶴の仮面』アジア多言語版ワーク・イン・プログレス上演～ (劇場実験型/2020年度)
- ・ 多層化手法による音楽詩劇の創作と上演 ～アークスモニウムを中心とした音楽と映像、言葉の融合～ (劇場実験型/2020年度)
- ・ 失われた犬牽の芸能犬—始原演劇の復元に挑む— (リサーチ支援型/2020年度)
- ・ 眩きにひそむ現代のこぼれ、身体、音楽—尾崎放哉に学ぶ (リサーチ支援型/2020年度)
- ・ レクチャーパフォーマンス制作とその翻訳に向けて：崔承喜をめぐるダンスとこぼれ (リサーチ支援型/2020年度)

【I】 劇場実験型 募集要項

「劇場実験型」は、京都芸術劇場を活用した「劇場実験」を研究プロセスの中心に据え、研究者とアーティ

スト・舞台技術者等の協働による研究チームによって行われる研究プロジェクトを指します。創造と研究の連携を通じた実践的な研究を支援することで、新たな舞台芸術のヴィジョンを構想する先進的な研究を募集します。

▶公募内容

舞台芸術(演劇、ダンス、伝統芸能、ジャンル横断的パフォーミングアーツ等)に関連し、京都芸術劇場(春秋座・studio21)を活用して行われる実践的研究。

研究の視点としては、以下のいずれかに当てはまるものであることを原則とします。

- ・作品の創作に向けたアーティストと研究者による劇場実験
- ・研究者を中心とする劇場を利用した研究プロジェクト
- ・舞台技術者を中心とする劇場機構の可能性を探究する研究プロジェクト

▶応募資格

以下のいずれかにあてはまること。

- ・大学その他の研究機関に所属する研究者、アーティスト、舞台技術者(いずれも常勤、非常勤は問いません)
- ・現在、舞台芸術の現場に関わっているアーティスト・舞台技術者・舞台批評家・プロデューサー
- ・大学院(海外の大学院を含む)を修了し、博士の学位を得ているか、またはそれに準ずる研究業績を持っている者

※日本学術振興会特別研究員など他機関の専従義務がある研究者は、研究代表者になることはできません。研究分担者、研究協力者としての参加は可能ですが、その場合、専従義務のある機関に本人の責任で届け出を行う必要があります(日本学術振興会特別研究員の場合、PDに限ります。DC1、DC2は研究分担者、研究協力者にもなることはできません)。

※研究計画が複数年度にわたるプロジェクトの申請も可能ですが、採択は単年度毎とします。

▶研究チームの編成

- ・**研究代表者**＝研究の中心となり、研究の遂行に責任を持つ人を指します(研究リーダー:1名)。
- ・**研究分担者**＝共同研究者として、研究の遂行に責任を持つ人を指します(コラボレーター/研究グループ:複数名)。
- ・**研究協力者**＝研究遂行に必要な研究者、アーティスト、舞台技術者等を指します。
- ・劇場実験には、劇場使用に関する相応の準備が求められるため、制作者等のマネジメント担当者を必ず1名、分担者もしくは協力者の中においてください(舞台制作の経験がある方が望ましい)。また、研究プロジェクトの軸となる劇場実験に際して必要な舞台技術者についても申請書に具体的に記入してください。
- ・研究チームはできるだけ複数の大学・研究機関に所属する研究者及びアーティストまたは舞台技術者で構成してください。
- ・研究代表者が大学や研究機関等に所属している場合には、その所属機関の了解を得た上で応募してください。また、研究代表者は、申請に際しては、あらかじめ研究分担者に参加の内諾を得てください。
- ・研究代表者・研究分担者には採択額の総額に対して合わせて上限20%までの企画料等を、研究協力者には担当業務に応じた謝礼(課税報酬料支出)を予算に計上することが可能です(2021年度改訂*)。
 - * 日本学術振興会の規定改訂などを参考に、研究代表者・分担者の「研究力向上/強化」のために本公募事業においても新たな規定を導入します。

▶劇場および使用可能な設備

最終的な研究発表の場として、基本的に京都芸術劇場(春秋座・studio21のどちらか)の使用を想定しています。ただし、未だコロナ禍が終息していない現下の状況に鑑み、本年度の【劇場実験型】公募研究においては、「京都芸術劇場」の使用を必須条件とは定めません。テーマ設定や、研究成果の発表形態・方法が本拠

点の事業内容にふさわしい研究計画であり、かつ、劇場を使用しない妥当性や必要性が認められる場合には、リアルな劇場の使用を伴わない活動計画であっても、審査の対象とします。

劇場を使用した研究発表を行う場合は、採択決定後、使用スケジュールや使用形態等を当拠点と相談・調整し、最終的に決定します。従って、応募に際しては、研究プロジェクトの目的・内容に応じた使用規模を記入してください。最低限の劇場管理スタッフはこちらで手配しますが、仕込みやオペレーションを行うスタッフ等は各研究チームの手配となります。

・春秋座(大劇場)

観客席・舞台ともに本格的な歌舞伎スタイルを基本としながらも、現代劇の上演にも対応できる設計が特徴です。歌舞伎のための花道、廻り舞台、鳥屋を設置する一方で、オペラのためのオーケストラピットを設け、各種の舞台表現に活用できる工夫を凝らしています。

※ 施設の詳細については、京都芸術劇場 HP をご覧ください。

・studio21(小劇場)

現代演劇やダンス、パフォーマンスなど、さまざまな舞台芸術のための実験空間です。移動可能な照明設備や音響装置を備え、天井グリッドには機材や美術装置を自在に吊ることができます。客席用ひな壇は組替式で、スペースの縦使いや横使いも自由です。

▶研究対象期間 : 2023年4月1日～2024年3月31日

(ただし、本学予算執行の都合上、2024年2月末までに研究活動が終了する研究プロジェクトが望ましい)

▶研究予算 : 1件あたり年間 250 万円を上限とする

(採択された研究プロジェクトには、上記の範囲内で必要と認められた研究費を、本研究拠点が支給する)

▶採択件数 : 2件程度を予定

▶応募方法

共同利用・共同研究拠点事務局 (kyoten@kua.kyoto-art.ac.jp) 宛に、E-mail にて以下の通り必要書類を提出してください。

必要書類 : 2023年度「劇場実験型」公募申請書 ※PDF形式のファイルを添付してください。

件名 : 2023年度「劇場実験型」応募

本文 : 研究課題名、代表者名、連絡先を明記してください。

※選考結果は 2022 年 11 月末までに 採否いずれの場合も、応募者全員にメールにて通知します。

※「劇場実験型」公募研究では、採択後、研究活動の開始前に、劇場の使用法および使用スケジュールについて事前打合せの機会を設けます。

応募期間 : 2022 年 7 月 15 日 (金) ～8 月 31 日 (水) 23:59 まで (必着)

※応募のメールを受信後、3日以内に事務局より書類受領の連絡をいたします。

受領確認の連絡が届かない場合には、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

【Ⅱ】リサーチ支援型 募集要項

「リサーチ支援型」は、劇場実験や作品の創作、発表に至る前段階の「リサーチ」を中心とする研究プロジェクトを指しています。新しい発想からなる舞台芸術作品の創作に向けた文献調査やフィールドワーク、その他

創作のための劇場実験を将来的に見据えた「リサーチ」を中心としたスタートアップとしての研究を募集します。

▶公募内容

新しい発想からなる舞台芸術作品の創作に係る学術研究や実地調査、または創作のための劇場実験を将来的に見据えた研究。

▶応募資格

アーティスト（舞台技術・アートマネジメント等も含む）、研究者の別を問わず応募できます。

※ アーティストには、映像分野や美術分野など、パフォーミングアーツ以外のジャンルも含まれます。

※ 【リサーチ支援型】研究事業として同一の研究代表者により計画される複数年度にわたるプロジェクトの継続採択は原則行いません。

▶研究チームの編成

個人またはチームによる申請、いずれも可能です。チームの編成に関する指定はありません。

※ リサーチ支援型に関しては研究代表者・研究分担者に対する企画料等を支払うことはできません。

▶研究対象期間 : 2023年4月1日～2024年3月31日

(ただし、本学予算執行の都合上、2024年2月末までに研究会が終了する研究プロジェクトが望ましい)

▶研究予算 : 1件あたり年間80万円を上限とする

(採択された研究プロジェクトには、上記の範囲内で必要と認められた研究費を、本研究拠点が支給する)

▶採択件数 : 2件程度を予定

▶応募方法

共同利用・共同研究拠点事務局 (kyoten@kua.kyoto-art.ac.jp) 宛に、E-mail にて以下の通りに必要書類を締切までにご提出ください。

必要書類 : 2023年度「劇場実験型」公募申請書 ※PDF形式のファイルを添付してください。

件名 : 2023年度「劇場実験型」応募

本文 : 研究課題名、代表者名、連絡先を明記してください。

※選考結果は2023年1月末までに、採否いずれの場合も、応募者全員にメールにて通知します。

応募期間 : 2022年8月1日(月)～10月31日(月) 23:59 まで (必着)

※応募のメールを受信後、3日以内に事務局より書類受領の連絡をいたします。

受領確認の連絡が届かない場合には、お手数ですが事務局までお問い合わせください。

【重要：新型コロナウイルスの感染拡大に伴う研究活動の実施に関する対応について】

未だコロナ禍が終息していない現下の状況において、実演芸術の上演ならびに劇場・音楽堂等を使用した諸活動の開催には、様々な問題が懸念されます。そこで2023年度の公募研究プロジェクトの実施にあたり、本拠点では以下のような対応を予定しております。

- ・ **【劇場実験型】公募研究における劇場の使用について**

2022年度に引き続き2023年度の募集においては、「京都芸術劇場」の使用を必須条件とは定めません。申請する研究プロジェクトにおけるテーマの設定や、研究成果の発表形態・方法において、それが本拠点の定める事業の目的に即した研究計画であり、かつ、劇場を使用しないことの妥当性や必要性が認められる場合には、劇場の使用を伴わない活動計画も、2023年度の【劇場実験型】公募研究と定め、審査の対象とします。

なお、以上に挙げた本年度の対応は、劇場を使用しない実験の募集を促すものではありません。作品創造のプロセスを検証する劇場実験など、実演芸術の今日的な課題の解決を目指すため、劇場を積極的に活用する研究計画等においては、従来通り本年度も【劇場実験型】公募研究と定めます。なお、審査においては、劇場使用の有無自体を審査の対象とせず、研究計画の独創性や実現性を重視し公平な審査を行います。

- ・ **劇場を利用した研究会の開催に伴う感染症拡大防止の対応について**

採択後の研究活動においては、社会的距離を確保し、三密を回避するなど、現下の情勢に応じた感染症対策へご協力ください。特に劇場を使用した実験やワークショップ等を計画する場合には、感染症拡大防止の観点を中心に考慮し、「京都芸術劇場 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策」(<https://kpac.org/information/>)に準じて、慎重に実施形態を判断してください。

※ 本劇場の定めるガイドラインは、COVID-19の感染拡大の状況に応じて、予告なくその内容が更新される場合がありますので、ご注意ください。

- ・ **研究会の中止判断に関して**

COVID-19の感染拡大が進み、研究プロジェクトの実施が困難であると見込まれた場合には、【劇場実験型】【リサーチ支援型】のいずれの研究会においても、本拠点事務局と研究代表者とが協議を重ねた上で、続行または中止の判断を検討します。なお、研究プロジェクトが中止となった場合の予算執行については、その時点までに支払いの完了した諸経費のほか、すでに実働されながら未執行となっている人件費等を、研究代表者ならびに制作担当者への確認に基づき、研究費として支給します。

劇場実験等が計画される研究プロジェクトにおいて、感染の拡大に伴う影響から、その開催が困難であると見込まれた場合には、劇場使用期間中であっても、中止の判断をする場合があります。また、中止の判断においては、教育機関内に設置された研究施設としての社会的責任に鑑み、京都芸術大学の定める指針に準じた決定をさせていただきます。なお、劇場実験が中止となった場合の予算執行についても、その時点までに支払いの完了した諸経費のほか、すでに実働されながら未執行となっている人件費等を、研究代表者ならびに制作担当者への確認に基づき、研究費として支給します。

- ・ **研究活動中止後の対応について**

研究活動が中止となった場合には、本拠点事務局と研究代表者との間で、翌年度以降に研究プロジェクトを延期する可能性について協議します。また劇場実験を伴うプロジェクトにおいては、翌年度以降の劇場実験についても、協議・調整を行います。ただし、COVID-19による感染拡大がそれ以後も長期化する場合や、京都芸術劇場の稼働状況によっては、延期による劇場実験の実施が困難となることもあります。

研究活動が中止・延期を余儀なくされた場合、研究報告については、原則、中止・延期の時点までの研究成果の報告をお願いすることになります。

選考委員・留意事項等（Ⅰ・Ⅱ共通）

▶選考・審査

2022年度運営委員、および2023年度運営委員に予定されている有識者から構成される審査委員会において採否を決定します。審査においては、研究計画の独創性や実現性を重視し、総合的に評価を行います。
※発表前の選考に関するお問合せはご遠慮ください。

▶留意事項

- ・ 応募申請書は本拠点のウェブサイトよりダウンロードしてください。
- ・ 一度提出した申請書、資料の差替えや返却は原則としてできません。
- ・ E-mail のみのご応募とします。郵送や持ち込みでの応募は受付致しません。
- ・ 必着日時を過ぎて到着した申請書に関しては、いかなる場合でも受理致しません。
- ・ 研究代表者として申請できるのは1人につき1件までです。
- ・ 支給される研究費の最終的な金額は、審査会での議を経て、本研究拠点が決定するものとします。なお、申請額通りの支給とならない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ・ 劇場その他の大学施設の使用および期間については、当該年度の劇場稼働状況（大学行事・授業等）との調整が必要となるため、採択決定後に当拠点との調整を行います。
- ・ 採択後の予算執行は、京都芸術大学が定める規定及び本研究拠点の規定に基づき行っていただきます。研究プロジェクトに直接必要と認められる支出以外の執行はできません。
- ・ 公開の研究会等を有料で行うことはできません。
- ・ 事業終了後の研究成果の出版等による公表については、事前に拠点事務局にご連絡ください。
- ・ 研究遂行上収集した資料（図書、DVD等の視聴覚資料）、機材については、原則として全て本研究拠点に属するものとします。
- ・ 採択された公募研究プロジェクトの参加者は、共同利用・共同研究拠点の図書、資料等を必要に応じて利用することができます。
- ・ 研究期間終了後に研究内容に関連、派生した公演・研究発表・執筆等を発表する際は広報物などに「京都芸術大学〈舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点〉」のクレジット表記をお願いします。

本拠点は、研究活動におけるハラスメントを防止するために、「学校法人瓜生山学園 京都芸術大学 ハラスメント防止に関するガイドライン」に則り事業を運営しています。

https://www.kyoto-art.ac.jp/info/about/evaluation/pdf/guide_harassment.pdf

【研究プロジェクト終了後の報告について】

採択された研究プロジェクトには、①研究事業報告会におけるプレゼンテーション（口頭発表）、②年次報告書に掲載する研究報告書の執筆・提出を行っていただきます。詳細は、研究活動終了後の調整となります。

京都芸術大学 舞台芸術研究センター（舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点）
2022年度 運営委員

委員長

天野 文雄(京都芸術大学舞台芸術研究センター特別教授/能楽研究)

委員

浅田 彰(京都芸術大学大学院芸術研究科教授/批評家)

井出 亮(京都芸術大学舞台芸術研究センター プロデューサー)

岩城 京子(アントワープ大学文学部演劇学科専任講師)

内野 儀(学習院女子大学教授/舞台芸術論・批評)

大田 和司(京都芸術大学舞台芸術研究センター技術監督/舞台監督)

岡田 温司(京都大学名誉教授/西洋美術史・思想史)

岡田 露子(京都芸術大学舞台芸術学科専任講師/演劇研究)

岡村 恵子(東京都現代美術館学芸員)

小崎 哲哉(ICA 京都 /REALKYOTO FORUM 編集長)

川原 美保(京都芸術大学舞台芸術研究センター プロデューサー)

川村 毅(劇作家・演出家)

北村 明子(信州大学人文学教授/振付家・ダンサー)

相馬 千秋(東京藝術大学大学院美術研究科准教授/NPO 法人芸術公社代表理事)
中島 那奈子(ダンス研究・ダンスドラマトゥルク)
長島 確(ドラマトゥルク、翻訳家/東京藝術大学音楽環境創造科 特任教授)
根岸 徹郎(専修大学教授/フランス演劇)
服部 基(照明デザイナー)
平井 愛子(京都芸術大学舞台芸術学科教授/演技論・プロデューサー)
星野 太(東京大学大学院総合文化研究科准教授/美学・表象文化論)
森山 直人(京都芸術大学大学院芸術研究科客員教授/演劇批評)
吉野 さつき(愛知大学文学部現代文化コースメディア芸術専攻教授)

▶お問い合わせ

京都芸術大学 舞台芸術研究センター 共同利用・共同研究拠点事務局

〒606-8271 京都府京都市左京区北白川瓜生山 2-116

TEL:075-791-9144(平日 10:00-17:00)

E-mail:kyoten@kua.kyoto-art.ac.jp

共同利用・共同研究拠点ウェブサイト k-pac.org/kyoten/

京都芸術劇場ウェブサイト k-pac.org/